平成３０年４月１９日

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会
会員の皆様へ

《４月度農場便り》

「お米づくりスタート」
桜も散り、裸になっていた雑木林の木々にも若葉が萌え始めました。田んぼには苗代が設けられ稲苗の育苗が始まりました。今年の稲作は昨年叶わなかった「亀の尾」での日本酒造りという夢があります。昨年まで大豆を栽培していた２反歩の田んぼを稲作に変え、醸造に必要な７００ｋｇの「亀の尾」を確保する予定です。農場近くの谷桜酒造の小宮山社長に協力して頂き無農薬無肥料の自然栽培米での日本酒造りへの挑戦です。既に「亀の尾」の播種は終え、芽も１㎝ほど伸びたので明日には予め準備してある田んぼの苗代に移動して育苗をしていきます。苗の量が昨年に比べ育苗箱にして５０枚多くなり今までと勝手が違い準備も大変ですが楽しみでもあります。今年の稲作は同じ北杜市内で就農した移住者が２名稲作を学びたいということでポイントの作業時には研修を兼ねての援農で労働力の面からは助かっています。但し講義と実習を織り交ぜての作業は時間がかかります。半面、「教えることは学ぶこと」で自分自身にとっては今までの経験を省みる機会となり勉強になっています。今月中には８枚となる田んぼの給排水口の確認、昨年被った鹿害対策の電柵設置等田んぼの整備を終えねばなりません。近くに人家もなく雑木林に近い２反歩の田んぼは鹿の通り道になり穂が出揃った時期に踏み荒らされ本来なら９００㎏前後の収量が２００ｋｇ以上の減収、その上収穫には機械での稲刈りが出来ず手作業での稲刈りとなり散々な目に合いました。大泉ではこの田んぼが一番標高の高いところに位置していて、この奥は雑木林の中に別荘が点在する環境で鹿の世界と隣り合わせなのです。鹿は踏み荒らすだけでなく、稲の苗が伸び始める頃に柔らかい葉を食べてしまうのです。この田んぼ鹿対策さえすれば源流に近く水は他の田んぼで使用する除草剤、化学肥料に汚染されてないので美味しい、安全なお米が収穫出来るのです。他の田んぼもそれなりに特徴があります。肝心な水の確保に苦労する田んぼ、生える草も田んぼによりクログアイの多い田んぼ、コナギが多い田んぼ、保水力の有無等一枚、一枚個性があるのでそれに応じた対応が都度必要になってきます。ともあれ私たち日本人の食生活は穀物、それもお米で命を繋いできました。食生活も多様化していますがお米宜しくお願いします。

・播種（4 月 13 日）

・手播きです（4 月 13 日）

メール　yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp　　携帯０８０－３０８０－３０１７